

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を掲げ、共有して業務に臨んでいる。その人の人生を知ること、今をそしてこれからの生活を大切にすることが、認知症介護の原点であると考えている。	法人理念を念頭に置き、事業所独自の理念を掲げている。職員も理念を理解し、利用者の人生や思い、嗜好などいろいろな方面から理解するよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の食材の買い出しに、日常的に地域のスーパーに買い出しに出ている。また、近隣小学校、幼稚園との交流会にも定期的に開催・参加している。中学生の夏ボランティアや高校生のインターンシップなど、実習生の受け入れも精力的に行っている。	地域での買い物や町内の清掃活動など地域の人達との交流の機会が多い。地元の高校生や中学生のボランティアや実習生の受け入れを積極的に行っている。	今後、自治会長とも密接な関係を築き、地域との交流を深め、地域の中において役割を増やしていくことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人材育成への貢献として、上述のとおり実習生の受け入れは積極的に行っているが、地域の人々に向けた研修や勉強会などの開催には至っていない。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の評価結果を運営推進会議にて公表。避難訓練に関して助言のあった部分は、目標達成計画に基づき、地域住民に声をかけ実施予定としている。	民生委員、家族、他事業所の職員も参加して、行事や事業所の方針などについて話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	倉敷市介護保険課の方を運営推進会議のメンバーとして加えているが、開催日の関係であまり参加していただけておらず、日頃から連絡を密にとっているとは言えない。介護事故があった場合は、早急に報告するようにしている。	運営推進会議において、市の職員と意見交換する機会は少ないが、地域包括支援センターは事業所の経営母体である法人が市の委託を受けて運営しており、担当職員とは密に連絡を取り合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年4月に身体拘束に関する勉強会を法人全体で開催し、身体拘束のないケアをスタッフ全員で目指している。玄関の施錠は、セキュリティや利用者の安全確保のため、暗証番号でロックしてある。	身体拘束をしないケアを実施するため、起こりうる転倒などのリスクについて、入所時に家族に対し丁寧に説明し、了承を得ている。玄関は安全のために施錠しているが、外出の希望があれば、職員が付き添い外出をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待のないケアをスタッフ全員で目指している。昨年度の実施指導でも助言がある、今年度より、虐待防止に関する勉強会も実施予定。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう	後見人を選任されている利用者が入所中であり、司法書士との面接機会も毎月ある。研修については今後の課題である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する重要説明は、契約前に十分に説明と質疑応答の時間を設け、納得いただいた上で契約を行い、サービスを利用している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見・要望について、訴えにきちんと耳を傾け、可能な限り実現できるように努めている。家族に関しては玄関に意見箱を設置して随時意見・要望を受け付けており、毎月の家族会の場で集まった意見について話し合う時間も設けている	家族会を組織し、入所時に家族に説明し、入会を勧めている。日頃のコミュニケーションを大切にして、意見交換をしながら、共に運営を担ってもらっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の職員会議・ミーティングや各委員会を通じ、話し合いで集まった意見を議事録に起こし、全員で情報を共有するシステムを構築している。	ユニットごとのミーティングや合同の職員会議を行っている。議事録は随時、パソコンに入力され、職員は無線LANを用いて閲覧することができ、情報の共有化を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価シートを職員に記入させ、管理者、代表者により助言や評価の修正を行う事により職員の業務の状況を把握している。またキャリアパスシートを作成し、やりがいのある職場環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実績と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新しく事業所に配属になる職員には新人業務日誌を日々記入させ、日々の課題や気付きなどの把握を行い助言、指導している。管理者には全国老人施設協議会の研修に参加させるなど、力量に応じた研修を受けさせている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	倉敷市介護保険事業者等連絡協議会のグループホーム部会や認知症と家族の会が主催する研修に参加するなど、他の同業者との交流の機会に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントで、家族や本人の意見・要望をしっかりと聞き、またサービスを始めてからも本人の要望などの話を傾聴し、安心して生活できるよう創意工夫を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とのかかわりも非常に大切と捉え、その主訴に注目し、出来る限り叶えることができるように努める事を説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントの時点で知りえた情報や意見・要望を「ケアプラン目標作成マップ」に起こし、関連性や優先性を確認し、それを生活支援の礎としている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りを介護の基幹におき、また職員が利用者と食事を共にするなどし、家庭的な環境・雰囲気大切にしている。風習や生活の知恵など、利用者から教わることも多くある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との外出などの際には、必要な介護技術等の助言を行っている。毎月の誕生会で、各担当が家族と食事時間を共にし、懇談で利用者の情報共有を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親類、友人などの人間関係が継続できるよう、気兼ねなく面会や電話の取次ぎができるよう配慮している。	利用者の自宅近くの店舗で買い物をするなど、外出の目的地を本人の馴染みのある場所にするよう心がけている。家族との連携がよく取れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	オープン以来1年半が経過し、馴染みの人間関係が出来ている。集団を好まない利用者に対しても、マンツーマンで関わる機会を可能な限り設け、孤立・孤独感をなるべく感じさせないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も利用者やその家族が気軽に立ち寄れるよう、退去時の相談援助時に説明や声掛けを行っている。隣の特養へ移った利用者やご家族とも、法人全体の行事などで交流がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の個性や性格を尊重しながら、アセスメント・モニタリング・カンファレンスを行い、出てくる意見・要望はもちろん、潜在的な訴えにも気づけるよう日々観察を行っている。	利用者ごとに担当職員が決められており、本人や家族との信頼関係を大切にし、断片的な現状の観察だけでは分からない過去の生活状況や本人の人となりや経験、思いを理解するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事業所理念そのものであり、入所時のアセスメントにおいて、生活歴の情報収集には特に力を入れて行っている。またそれが活かされるよう日々工夫を凝らしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や食事・排泄チェック表を通し、生活パターンの理解、把握に努めている。ADLに関しても、定期的にあセスメントの見直しを行い、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	「ケアプラン作成マップ」を全スタッフで意見を出し合って作成し、それを元に解決すべき課題について検討しケアプランを作成している。	担当職員や家族や本人の意見に基づいて、ブレインストーミングの技法を応用した独自のマップを考案し、プランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援内容や生活の様子の記録として、個別に詳細に記録を行っている。月に一度、ユニット内でミーティングを行い介護方法の修正、統一を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状況や状態に合わせた支援を行えるよう、また必要と思われることはすぐ対応できるよう、連絡帳や社内メールを使い情報共有を行い、取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣小学校・幼稚園との交流会や地域を巻き込んだ納涼祭などを通じ、地域に囲まれ、地域と共に生活していることを実感していたできるように取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前に本人・家族とかかりつけ医について相談している。家族による受診の際は、情報を細かく提供し適切な医療を受けられるよう支援している。連携している医師も24時間体制でバックアップしてくれている。	2週間に一回、かかりつけ医の診察がある。口から食べるということを大切にしているので、口腔ケアについては、家族会の同意の元に歯科医の訪問診察を推進している。常勤の看護師を配置するなど、緊急時にも24時間対応できる体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	配置している看護師により、内服薬の管理や必要な処置、受診・往診時のパイプ役を担い、的確な医療を受ける体制を築いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先には、既往歴などの基本情報はもちろん、日々の生活の様子や、入院に至るまでの経過の詳細を伝え、早期改善早期退院できるよう配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階でサービス担当者会議や家族を招いてのカンファレンスを行い、事業所のできる対応についての説明を十分に行い、近い将来迎えるであろう次のステップについて、あらゆる視点で協議しながら準備を行っている。	重度化について入所時より家族と話し合いを行っている。日常生活において入浴や食事、排泄など医師とも相談し、方針を立て、できるだけ本人や家族の希望に沿う支援を行っている。グループの経営する老人福祉施設とも連携を取り、対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	倉敷消防局員立会いのもと、蘇生術訓練を年1回行っている。緊急時対応マニュアルの整備を行い、平素より目を通し、不測の事態に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、避難訓練(夜間想定を含む)を行う予定としている。併設している特養や地域住民と連携を図りながらの避難訓練も実施予定。	老人福祉施設と事業所合同の避難訓練を年2回行っている。今回、職員が水害を経験したことにより、緊急時に時間のかかることなど、気づいた課題を訓練に生かし、地域住民との協力体制を築きつつある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の発言には、可能な限り同意・共感の態度で対応している。苦情にも真摯に対応し改善に努めている。申し送りの際は、プライバシーに関わる利用者の情報が他者に聞こえないよう、場所や声のボリュームに配慮している。	職員はていねい語や尊敬語など、適切な言葉使いのマニュアルを用い、単に親しみのある言葉ではなく、より丁寧な言葉づかいができるように、研修し指導されている。情報化によってできた時間を利用者のために有効に使うことはこれからも続けてほしい。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の機会を多く持てるよう、ゆとりあるタイムテーブルで日課をこなしている。会話の中で感情表出ができるよう、話を傾聴したり、親身になって受け答えするように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れとしてある程度の日課は作っているが、その中で生活歴や興味のあることに関連した余暇の提供やそれをいつどこで誰と行うか、自己決定のもと活動して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な出張理美容を利用している。衣類のコーディネートと一緒に選んだり、手鏡・くしを手渡したり、いつまでも整容・身だしなみを忘れないよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りを日常生活支援の基幹に据え、買い出しから準備・調理・片付けの工程に利用者も参加してもらっている。	人の役に立てることで喜びをもち、感謝されることが生きがいにつながると考え、利用者にも職員と一緒に調理をしたり、盛り付けや後片付けなど出来る事をして頂けるよう心掛けています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量のチェックは3食行い、そのデータを健康バロメーターのひとつとしている。カロリーや水分量制限のある方に関しては、その情報をスタッフ全員で共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	可能な限り、毎食後の口腔ケアを勧めている。また毎週土曜日(月4回)、訪問歯科診療にて、専門職からの的確な指導・ケアを受けることができている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	課題のある方については、ミーティングで話し合い、定時のトイレ誘導を行ったり、時系列で見やすい排泄チェックシートを使用しながら、個々の排泄パターンや排便コントロールを行っている。	利用者によって違う排泄の時間、頻度などのパターンを、排泄チェックシートを利用して把握し、一人ひとりの特徴に合わせて自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な水分・運動を行いながら便秘改善に努めている。乳製品の提供や野菜嫌いな方の提供方法など、食事面から工夫もしている。排泄状況を看護師に申し送り、必要に応じ薬の調整も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に毎日実施し、可能な限り入浴回数や時間帯等の希望を聞きながら対応することに努めている。入浴できなくても足浴や清拭を行い、個々の希望に添いながら清潔保持できるよう支援している。	週2回以上入浴できるよう支援している。利用者の希望があれば、毎日でも入浴できるよう対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの好む照明や室温・衣類調節に配慮し、特別な場合を除き、目が覚めるまでゆっくり休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をいつでも目を通せるようにファイリングし、変更などがあればその最新の情報を全職員で共有している。担当の薬剤師とは、特に密接に連携を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を生かしたレクリエーションや余暇活動への参加、また日常的な役割を創設し勧めている。アルコール依存の既往がある方への配慮のため、アルコールの提供は行っていない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩の付き添いや草木の手入れなどを利用し、可能な限り外の空気に触れる機会を作れるよう努力している。日々の生活に変化や潤いを与える為、定期的に外出企画を立て、移りゆく季節を肌で感じて頂いている。4月には家族会の協力をいただき、RSKバラ園に花見外出を行った。	年2回全員で外出できるよう行事を企画している。また、日頃から小グループに分かれて散歩や買い物に行っており、個別の機能訓練計画を作成し、実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族了解のもと、小遣いを個人管理することは規制していない。外出で買い物したり、併設施設にジュースを買いに行ったりし、それが気晴らしや自己決定につながっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者には連絡を取り次いだり、また家族からの電話を利用者につないだりしている。携帯電話を持っている方もいる。余暇活動で絵手紙を実施し、友人と葉書のやり取りを行う方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同スペースには、散歩の際に摘んできた草花を活けたり、季節の掲示物を作成・掲示し、家庭的雰囲気作りに努めている。気候の良い時期は、ウッドデッキでティータイムを過ごし、開放的な雰囲気作りに努めている。	高い天井、木肌の温もり、暖かい色の照明、床暖房等が快適な環境を実現している。また、採光や換気にも注意し、心地よい空間を作り上げている。また、四季の草花を絶やさないようにして、季節感を大切にしている。利用者には菜園の草抜きや水やりなど出来る事をお願いし、一緒に収穫を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同スペースにソファや椅子を点在させ、個人または気の合う者同士での空間が確保できるよう、自己決定のもと、思い思いのスペースで過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や思い入れのある品を持ち参し、家庭的な雰囲気・住み慣れた環境に少しでも近づくよう工夫している。家具の配置については、利用者が生活しやすいよう希望を聞きながら配置している。	家庭には及ばないという諦観の中からも、使い慣れた家具などを持ち込んでもらい、家庭的な雰囲気を大切にしている。利用者の希望を聞き、気持ちに配慮し、居心地良く過ごしてもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険の芽を職員が摘み、安全な環境で生活していただけるよう、リスク予防の検討会を毎月行い、職員に危険に対する意識付けを行っている。		